

コラム - 寄附すると人は幸せになる？

「寄附を依頼することに精神的なハードルがある」という方は、NPOにも少なくありません。実際にサービスや物を渡して、その対価としてお金を受け取ることは良いが、何も渡していないにも関わらずお金を受け取る、また依頼することには、罪悪感があるということです。

しかし、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学の心理学者エリザベス・ダン教授と、アメリカ・ハーバード大学ビジネススクールのマイケル・ノートン教授による研究では、人は自分のためにお金を使うよりも、他者のためにお金を使うことで、脳が幸福感を感じるということがわかっています。しかも、それは友人や家族へのプレゼントから全くの他人へのチャリティーでも同じであり、かつ、経済的に豊かな先進国カナダでも、比較的貧しい途上国のウガンダでも同じ結果が出ているそうです。

実際、寄附を受け取るNPO側がお礼を言うのは当然ですが、寄附した人からNPOがお礼を言われたという話を聞くことがあります。NPOが寄附を依頼することは、単に資金を得ること・支援を受け取るだけではなく、人々が他者のために行動し、具体的かつポジティブな変化を起こすことで、幸せになる機会を提案しているとも言えます。

私たちは忙しい日々の仕事と生活の中で、ともすると「自分は特別ではなく代わりがいる」「自分が何をしても社会は変わらない」と感じてしまいがちです。NPOの役割は、「あなたが必要です」「あなたの力で社会は変わります」というメッセージを寄附依頼に託し、勇気や希望を配っていくことなのかもしれません。

文責：認定NPO法人アカツキ 理事兼職員 永田 賢介

事務体制整備に力を入れると、 事業も広がっていきます。

多くの NPO 法人が、今日の前で困っている人や、大きな社会課題と向き合い、また新しい社会の夢を描いて、日々の活動を展開しています。忙しい毎日の中では、ついつい地道な事務作業を後回しにしがちですが、お金の計算や保険の手續に漏れがあることで、事業がストップしてしまうことがあっては大変です。

受益者のみならず、支援者・行政・企業・地域等、様々な関係者と関わり、その力を引き出すことができるのは、堅実な事務作業と、開かれた組織体制によるものです。実際に「あの NPO の活動素敵だな」と思ったら、少し踏み込んで話を聞いてみてください。事務体制の整備に、思ったよりずっと工夫し、力を割いているはずですよ。

事務の影響力は掛け算、「1」の力を注げば「3」にも「5」にもなって返ってきます。この冊子を活用した皆さんの活動が更に広がり、福岡という地域と人々の暮らしに、豊かな変化が生み出されることを願っています。